

千島喜久男先生生誕 112 年祭 千島学説大阪セミナーに向けて

——物質文明と生命の没落、自衛と再生——

3. 1 1 の東日本を襲った大震災・津波、福島原発事故は、我が日本に未曾有の困難を齎^{もたら}した。震災後、既に半年以上も経つというのに、地元住民や、多くの国民の努力にもかかわらず、国家の中核は、未だ、復旧・復興の具体的指針すら出せない体たらくです。

さて、5月の東京セミナーも風評を含め、放射能禍により、開催を危ぶむ声もありましたが、それでも、何とか、無事終えることが出来ました。そんな中でも、東京セミナーも、7月の山口大会も過去にない多くの参加者が参集しました。

大阪セミナーのテーマも、『医と食』を取り上げましたが、福島原発事故による放射能禍も避けて通れませんので、原発問題も重要なテーマとしました。

千島先生は、すでに、『文明と生命』—物質文明と生命の没落—の論考の中で、公害、薬禍、放射能禍を鋭く指摘し、文明病と心身の健康・自衛をと問うています。

私たちも、ガン問題を典型として、近代医学、近代栄養学、近代農法なるものを、少なからず論じてきました。

医学に眼を転じてみると、医師が増え、医学・医療が発展していると言われながら、病人は増加し、医療費は国家予算を脅かし、健康保険は破綻寸前です。

今から 10 年前の平成 13 年度の『国民生活基礎調査』によると、国民の三人に一人以上が、何らかの症状をもって、病院通いをしているとの調査結果が出ています。

また、原因不明で、厚生労働省指定の「難病」に指定されている病気は、ベーチェット病、重症筋無力症、SLE(全身性エリテマトーデス)など、四十以上。

医師数は、昭和 30 年(1955 年)に 9 万 4563 人、昭和 40 年(1965 年)に 10 万 9369 人、平成 14 年(2002 年)には 26 万 2687 人と、ここ 50 年で、3 倍近く増えています。しかし、まだまだ、医師不足が嘆かれています。医師が増え、医療費が増加しても、病人が増え続ける。なぜかである。

近代医学は、いったい如何なるものなのか。千島先生は、近代医学の成果なるものを、医学理論も含め『医学の迷信』と断じました。

先生は、次のように言う。『科学(医学)は事実に基礎をおくべきである。ところが現代医学や医学の基礎となっている生物学などの 8 大根本原理(法則)が事実と相違しているから驚きである。……現代医学者、医師及び一般の人々が事実と一致しない原則を基礎としている現代の医学生物学の凡てを真理と解し、それを信ずるために……医原病や薬禍の犠牲者を出している』と。そもそも現代医学は、基礎理論からして根本的に間違っており、故に、病気の原因が解らず、化学薬剤に頼り切るため、医療による医原病、薬禍が絶えず、難病が増えるのである

事実を見よう。

医師や私たち国民も、例えば、人類を脅かしてきた幾多の感染症は、ワクチン(予防接種)により克服できたと思っている。また、恐ろしい死病といわれた結核も、抗菌剤(ストレプトマイシン、パス)の開発、あるいは結核検診、ツベルクリン反応や BCG(結核のワクチン)などが死亡の激減に繋がったと、医師も国民も 99%が思った。そして今日までもそう思い込んでいる。実際は、克服されたといわれる感染症は、ワクチンが出回るはるか以前におおかた収束していた。結核も、欧州、英・独・仏国においては。上記の抗菌剤が出回るほぼ 100 年前に、死亡者が激減していた。

事実が見えない、何故であろう。近代医学は、数々の難病を克服し、輝かしい金字塔を打ち立てたとの、過度の思い込みがそうさせたのであろうか。

医学理論を含め、一つ一つの事実を見ていかねば、自己の生命の防衛すら出来ない。これが現実である。

福島原発事故を目の当たりにして、放射能禍は我が国民のみならず、世界の多くの人々も、半ば脅えつつ、事態の推移を固唾を飲みながら、注視している。

政府や東電は、事故の解決が出来るのだろうか。マスコミは本当のことを報道しているのだろうか。

原発については、専門家の間でも議論が錯綜しており、混沌状態にある。だが、国民の多くは脱原発の方向に眼が向いてきている。幸い、千島先生は放射能禍についての具体的な防衛策を含めた論考を残してくれた。また、長崎で被曝した秋月振一郎医師や広島で被曝した平賀佐和子さんの経験から、多くを学ぶことが出来る。

我が会、あるいは周りには、放射能に関する専門家や、専門家でないにしても深く研究している方々がいる。プログラムを見て頂ければ分かりますが、より深い学習と議論が出来ると思う。まずは、事実を知ること。同人の幾人かは、福島に実際に足を運び、実地調査をしている。また、東北の地で治療もしている。

また、気になることではあるが、1999年9月30日、茨城県東海村核燃料加工工場で「臨界事故」が発生した。700人近くが被曝したが、中でも現場で作業にあたっていた3人の労働者が大量被曝し、そのうち大内久さんと篠原理人が、筆舌に尽くしがたい苦しみの末に亡くなった。さて、どのような治療を受けたのであろうか。なぜ、そう問うかといえば、イラクで劣化ウラン弾により被曝し白血病になった子どもたちに、治療して欲しいとの善意から、日本からも医師たちが抗癌剤を送っている。白血病は抗癌剤で治癒できるのか。また、これほど恐れられている放射線をレントゲン撮影や診断に使われる放射線の量は、胸部 X 線 1 枚で 0.05mSv。ところがガン治療に使われる放射線は一回で 2000 mSv。法律上設定されている被曝許容量 50mSv の数十年間に匹敵する量を一瞬にして浴びせられる。治癒には程遠い、抗癌剤や放射線治療が、日本では標準治療として公認されているのです。現実を直視し、自己防衛策を身につけよう。困難こそ、私たちを鍛えてくれます。セミナーへの多くの参加者を願っています。(千島学研事務局)

千島先生・生誕 112 年祭 ―平成 23 年度千島学説大阪セミナー―
――西洋物質文明と生命の没落・医療禍、食禍、放射能禍からの自衛策――

日 時 平成 23 年 10 月 29 日(土) 午後 1 時～午後 8 時(受付開始 12 : 30～)
会員総会 午後 12 時～12 時 45 分(総会受付開始 11 時 30 分より)

会 場 茨木福祉文化会館 302 号室(親睦会……同室)
茨木市駅前 4-7-55 (TEL 072-625-5421)

会 費 (1) 両日とも参加 5,000 円 (2) 1 日のみ参加 3,000 円
(3) 親睦会参加は別途 2,000 円
・参加申し込みは予約制です。郵便振替用紙をお送り致しますので、事前に
参加費を郵便振替にお振替え下さい。

主 催 千島学説研究会
・セミナー実行委員長 増本勝久
副実行委員長 大杉幸毅 高橋秀明
・セミナー学頭 酒向猛
副学頭 小松健治 鈴木一策 小島秀樹

連絡先 千島学説研究会事務局
〒567-0001 大阪府茨木市安威 2-24-13
俵山房子 TEL&fax 072-643-8579
千島学説研究会東京事務局
〒225-0002 横浜市青葉区美しが丘 1-19-2、4-6-106
病癒し所『天心』仁志天映 TEL&fax 045-902-2034
e - メール nishi-tenei@nexyzbb.ne.jp

会場案内図



第1日目 10月29日(土) 午後1時～午後8時

会員総会 12:00～12:45(受付開始 11:30～)

セミナー受付開始 12時30分より

総合司会 小松伸子・向井田昭則

第1部 セレモニー

13:00～13:55

総合司会挨拶

小松伸子(あうん健康庵・事務長)

全員合唱『ふるさと』

(元美少女合唱団)

開会の辞

増本勝久(株・ホワイトマックス会長)

代表挨拶

仁志天映(病癒し所『天心』)

基調講演 千島先生の『文明と放射能禍』をどう読むか 酒向猛(外科医師)

第2部 巻頭講演

13:55～14:35

原発・放射能禍を考える

大杉幸毅(血液循環療法協会会長)

特別講演

14:35～15:45

①長崎被爆の経験から学ぶ・放射能禍から身を守る 阿部一理(民間療法研究家)

②放射能除去活動報告

増本勝久(株・ホワイトマックス会長)

—————休憩 15:45～16:00—————

第3部 原発問題を考える——相互討議——

16:00～17:30

問題提起 福島での実地調査報告

高尾征治(工学博士)

・放射性物質をゼロにする

(現地に入って)

・大杉幸毅 ・三上玄鐘 ・江口麻緒

(ガン、食養、その他の病気の問題の討議も了)

—————親睦会準備休憩 17:30～17:40—————

第4部 親睦会

17:40～19:40

司会進行

向井田昭則

乾杯

丸本執正(伯方の塩・代表取締役)

閉会の辞・一発締め

小松健治(あうん健康庵・医師)

◎後片付け(19:40～20:00)

第2日目 10月30日(日) 午前10時～午後5時
(受付開始 9:30～)

第1部 セレモニー	10:00～10:55
総合司会挨拶	向井田昭則(イー：コーポレーション)
全員合唱	元美少女合唱団
開会の辞	小島秀樹(国際弁護士)
基調講演 宇宙の循環に開かれた熊沢蕃山の思想	鈴木一策(大学教員・哲学)

第2部 巻頭講演	10:55～12:15
① 子宮頸ガンとワクチン	仁志天映
② 経験から学ぶ腰痛に関しての一考察	小島秀樹

—————昼食休憩 12:15～13:15 —————

第3部 特別講演	13:15～14:45
① 命の食育 キッチンとトイレから	山崎万理
② プレインミルク、玄米の食べ方	山本朝子
③ 病気は自分で治せる	波多野勝彦(映画監督)

第4部 千島学説とその応用及び実践報告	14:45～16:05
① 放射能禍と塩	丸本執正(伯方の塩)
② 放射能禍と竹炭	新野恵(かぐやネットワーク)
③ 千島学説と鍼灸(治療報告)	福本明吉(鍼灸師)
④ 自分(自然に)らしく生きる	山口陽子(我花咲)

—————休憩 16:05～17:20 —————

第5部 最終講演	16:20～17:10
① 経済習慣病の改善	佐藤とみ子(日本ねむり道協会)
② エネルギー医療 オルゴンリングを手に(第2報)	小松健治(あうん健康庵)

第6部 フィナーレ	17:10～17:20
閉会の辞	大杉幸毅
一本締め	鈴木一策

*プログラムは一部変更されることがあります。